



院長  
仁木 啓介

——キハーティー・ホスピタルという名称が次第に認知され、我々も漢字の名称からカタカナの名称にやっと慣れてきた感じがする。月1のペースで講演依頼が舞い込んでくるが、10月には大阪大学で解離についてのワークショップと研修会、一般口演の座長をさせて頂いた。様々な意味で私はつてこれから将来の臨床家としてのスタイルを考える切っ掛けになったと思う。一方的に講演をするだけではなく、多方面の専門家の先生から意見や励ましを伺ったり、様々な交流により毎回多くの刺激と、元気と同時に頂かせてもらっている。

わざ者の私は、一人でいつも何かに立ち向かい、孤軍奮闘していると勘違いをしていた。今この診療ができるのは、全国の同じ仲間に支えられ、サポートと多くの勇気と元気を与えて続けてくれている様々な先生方のお陰でありとても感謝している。更なる私達のレベルアップにも繋がる、他の機関や分野を超えて繋がり、輪を広げていくことでヨリヨリな病院作りができるものと信じている。

先日、今まで秋祭りとして執り行つた行事を、「ニキパーティー」開催しました。今年は、地域のボランティアの方々峰熊会、肥後手まりの会の協力を得て歌あり踊りありの華やかで、すばらしいパーティーであったと感じている。名称も秋祭りから、「ニキパーティー」に変更しました。パーティー気分、お祭り気分をより一層高めて皆さんに喜んでいただけるように今後も委員一同取り組んでいきます。

運営委員長 松尾ヘッド

本年の6月から「秋まつり委員」を中心に全スタッフの協力を得て、本年も3回目を開催することが出来ました。地域の方たちとの交流も徐々に深まり、今年は峰熊会会長、米倉様はじめ、肥後手まり樂座の皆様、紙飛行機のデモンストレーションをしていただいた石崎様に来院いただいて大盛況でした。

今年は、地域のボランティアの方々峰熊会、肥後手まりの会の協力を得て歌あり踊りありの華やかさを、二キパーティー・ホスピタルと称して執り行つた。ハーティーとパーティをかけて、だいそれのようではあるが、其處にはユーモアのある暖かさも求めている。年々活気を感じる催しがあるが、今は、地域のボランティアの方々峰熊会、肥後手まりの会の協力を得て歌あり踊りありの華やかさを、二キパーティー・ホスピタルと称して執り行つた。ハーティーとパーティをかけて、だいそれの

味方を得ることができ、ボランティアの方々には、ステッフ一同、心から感謝している。上手くお礼を伝えることが出来ない患者様達も、その目が優しくほほえんでいるのが印象的で、それは喜びの目でキラキラと光り輝いた。

## ニキパーティー

2007.10.21(日)

事務からのお知らせ

本年の6月から「秋まつり委員」を中心に全スタッフの協力を得て、本年も3回目を開催することが出来ました。地域の方たちとの交流も徐々に深まり、今年は峰熊会会長、米倉様はじめ、肥後手まり樂座の皆様、紙飛行機のデモンストレーションをしていただいた石崎様に来院いただいて大盛況でした。名称も秋祭りから、「ニキパーティー」に変更しました。パーティー気分、お祭り気分をより一層高めて皆さんに喜んで、楽しんでいただけるように今後も委員一同取り組んでいきます。

運営委員長 松尾ヘッド

患者様とご家族の方へ、保険証の確認をお願いしています。  
★[外来]……診療毎時  
★[入院]……月1回  
来院されました際は、窓口での保険証の提示をお願いします。

## そよ風通信

ニキハーティー・ホスピタル 初冬号

■発行/ニキハーティー・ホスピタル  
■院長/仁木啓介  
■発行日/平成19年11月23日[第6号]

ニキハーティー・ホスピタル  
NIKI HEARTY HOSPITAL

基本理念  
ニキハーティー・ホスピタルは、患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。

## 全国被害者支援ネットワーク 第2回九州地区直接的支援セミナーに参加して

仁木院長はトロツマの理解との理解との理解の対応と題し、犯罪被害や事故に遭われてしまった患者様に対する精神科医療的側面からの患者様の理解と適切な対応について講演をおこないました。

また、犯罪や事故被患者の方々に直接対応をおこなう援助者が受けた一次的外傷性ストレスについても説明がなされました。これは被害体験を聞いたり、それに対する具体的な対応を教示したりすることで生じる援助者の強い情動が強いストレスになることが多いといふもの。これに対しては、同僚のサポートやセルフケアが重要であるという視点が示されました。さういふ被患者遺族のケアの重要性についても触れられ、必要であれば専門的な介入が必要されることの重要性が述べられ、そこでトロツマの治療として効果的であるEMDRが紹介され実際の症例が二例で演示されました。

今回、同行させていただいた感想として、熱心にノートをとる様子が多く見られ、質疑応答も活発に意見や質問がなされるなど、参加者の意欲が非常に高かったことが印象として残りました。このことは逆にこの領域の実践の難しさを物語っているのではないかと思いました。また、EMDRの実際の場面を提示するなどイメージアップが十分になされ、後の質疑応答にも反映したのではないかと思いました。犯罪被害の現場は人のことのまことに見えないを得ないシビアな場面が多く、本講演を聴きながら、心理臨床家としてどのような実践が必要なのかということに関して改めて考えさせられる講演でした。

心のケア相談室  
臨床心理士 佐竹圭介

外傷後ストレス障害)が挙げられました。これらをふまえ、ついた症状を呈している方への対応に一般的な精神疾患、④ASD(急性ストレス障害)・PTSD(心的要なかわりとして「安全の確保」)症状は正常な反応であるといふ保証「自己コントロール感の回復・自己努力の重視」将来展望の提示などの視点が示され、それについて具体的な対応のあり方について説明がなされました。

また、犯罪や事故被患者の方々に直接対応をおこなう援助者が受けた一次的外傷性ストレスについても説明がなされました。これは被害体験を聞いたり、それに対する具体的な対応を教示したりすることで生じる援助者の強い情動が強いストレスになることが多いといふもの。これに対しては、同僚のサポートやセルフケアが重要であるという視点が示されました。さういふ被患者遺族のケアの重要性についても触れられ、必要であれば専門的な介入が必要されることの重要性が述べられ、そこでトロツマの治療として効果的であるEMDRが紹介され実際の症例が二例で演示されました。

今回、同行させていたいた感想として、熱心にノートをとる様子が多く見られ、質疑応答も活発に意見や質問がなされるなど、参加者の意欲が非常に高かったことが印象として残りました。このことは逆にこの領域の実践の難しさを物語っているのではないかと思いました。また、EMDRの実際の場面を提示するなどイメージアップが十分になされ、後の質疑応答にも反映したのではないかと思いました。犯罪被害の現場は人のことのまことに見えないを得ないシビアな場面が多く、本講演を聴きながら、心理臨床家としてどのような実践が必要なのかということに関して改めて考えさせられる講演でした。

心のケア相談室  
臨床心理士 佐竹圭介

## 新栄養課長紹介

管理栄養士 中島 吏妙

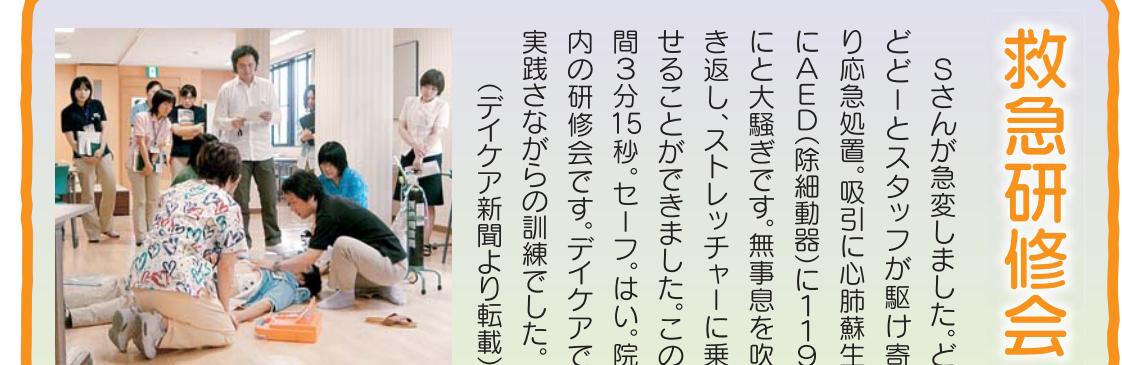
この生活も4ヶ月が経ち、ようやく職場の環境や雰囲気に慣れだして来た今日この頃です。栄養課長として歩を踏み出しましたが、まだ戸惑いとの連続と奮闘の毎日です。患者様に喜ばれる食事の提供を第一に、その中で皆様方に食の楽しみや重要性をお伝えしていくけれど思っています。管理栄養士としての自覚と語りを忘れず、自分自身キャリアアップに努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします☆

エンジョイ芋掘り

OT(作業療法)患者様と一緒に芋の収穫をしました。暑い夏に雜草となり、汗をかいでの作業はこの日の収穫に一段と喜びをもたらしてくれました。自分の手で田を植え育て、収穫したそれを味わい、人にも喜んでもらえるこのすばらしい体験を通じて患者様と共に私たちスタッフも成長しています。

作業療法士 近藤 龍太郎

	外来実績人数 2006.10月~2007.9月												
	平成18年		平成19年										合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
外来患者延数	964	935	877	809	812	889	835	866	852	806	708	831	10184
診療日数	25	24	25	23	23	26	24	24	26	25	27	23	295
1日平均人數	38.66	38.36	35.08	35.17	35.30	34.19	34.79	36.08	32.77	32.24	26.22	36.13	34.52
初診者数	31	30	30	32	35	40	30	32	28	37	41	27	393



外来診療のご案内												
月	火	水	木	金	土	休	診	午前	午後	午前	午後	午前
仁木 啓介	岩渕 龍太	平村 英寿	宮里 哲也	岩渕 龍太	休	診	★					
宮里 哲也	林 俊文				★		★					
村上 良慈					★	★	★					
仁木 啓介	岩渕 龍太	平村 英寿	宮里 哲也	岩渕 龍太	休	診						
宮里 哲也	林 俊文				★		★					
村上 良慈					★	★	★					

のさんが急変しました。どうぞお見舞い下さい。  
どどーとスタッフが駆け寄り応急処置。吸引に心肺蘇生にAED(除細動器)に119にかけられます。無事息を吹き返し、ストレッチャーに乗せることができます。この内研修会です。ティケアで実践ながらの訓練でした。(ティケア新聞より転載)



## 編集後記

編集委員 田中 奈央子

前回号の途中から「そよ風通信」制作に参加する事になりました。出来上がるまでの全てを体験するのは今号が初めてです。皆さん知ってました?? 広報誌が、病院スタッフの手作りで出来ているという事。私はてっきりどこかに頼んで作られたものだとばかり…驚きました。

これからも「そよ風通信」を待ってくれている方の為に、頑張って行こうと思います。見守ってくださいね。

広報委員 津崎事務長(委員長) 矢形(ティケア) 川上(薬務課) 小川(外来)  
高藤(栄養課) 秋成(ティケア) 三ツ石(事務課) 田中(事務課)

# 特集「ストレス」前編

インタビュー・ニキハーティーhosptital 村上良慈Dr.に聞く。

リヨージ



今日は当院ドクター村上先生にインタビューします。テーマは「ストレス」。う、これつて何から入ればいいの。で、広報委員で話し合って「じゃあ、いくつか質問を考えて、Q&Aの形式にしたら」なるほど。さつそく村上Dr.にQをどんどんとお渡ししました。

はい、そのAが今回の特集記事となりました。が、それだけじゃいかんだろうという向きもありますので、村上先生のことを知つていただけたらと雑談風のインタビューをおこないました。

広報委員小川(以下広報) 村上先生、お忙しいと仰りますがどうぞ。ありがとうございます。先生からいただいお答えがあります。へたなインスタジヨーヨー、これはこのまま掲載したほうが良さないのです。そうしていざっそく村上Dr.はQをどんどんとお渡ししました。

はい、そのAが今回も特集記事となりました。が、それだけじゃいかんだろうという向きもありますので、村上先生のことを知つていただけたらと雑談風のインター

ビューをおこないました。が、それだけじゃいかんだろうという向きもありますので、村上先生のことを知つていただけたらと雑談風のインター

ビューをおこないました。が、それだけじゃいかんだろうとい

うですか。

村上医師(以下村上Dr.) はい、どうぞ。あの、ストレスチェック表みたいなのを用意しましたが、結構スペースあるんですけどどうしたらいいのでしょうかね。まあ、ないならないでかまわんとですね。

広報 載せた方がいいと思います。

村上Dr. じゃあ、前半か後半に。

広報 はい、後半に載せましょ。

村上Dr. 出典はわざと出してください。著作権つるさいの。

広報 はい、で、さついいですが今回のテーマは「ストレス」です。どうしたことで先生のストレス解消法はなんですか。

村上Dr. 基本的にはゆっくりメリハリをつけて休むことださけど。大きくみて静と動の2つのやり方があって、静のほうは温泉に入ったりとか、そういうゆっくりするとか自然にふれるところがコラックスすることですね。毎週とはいわんけど毎に3回は温泉に行きます。

広報 あとは音楽、とくに最近はボサノバみたいな感じはしています。音楽なんか、ずっと車の中とか、歩いている時とか運動している時とか、P.O.D.そのあたりを聞いています。

広報 運動は毎日しているのですが。

村上Dr. うん、毎日はつづけて…。自分を活性化するような発散するようなストレスの解消法つまり、静と動の動のやり方としてスポーツクラブで筋トレやったり有酸素運動をやるとか、音楽も先ほどとは逆で攻撃的な音楽ですね。ヒーメタとかロックとかフュージョンとかを大音量で聞くとかさっきの癒し系とは逆に自分の攻撃性を発散するようなやり方です。ストレスの解消法を二つのパターンでやっています。

あと、ギターとかベースをやっていたんですね。いやではやつてないのですが、前の病院では職員や患者様とバンド組んでひな祭り演奏会とかに出でていました。広報 先生はサイクリングをやつてしますけど、どういへどこのところを走るんですか。

村上Dr. いろいろあるんですけど、きのうは金峰山のとくべんまで行つてきました。

広報 へ。

あとの茶屋まではまあまあある程度マイペースで行けますけど、それからあとがきついてですね。あの方のすぐ近くですが、あそこまでが登り坂がきついところを走るんですね。

広報 へ。

村上Dr. いろいろあるんですけど、きのうは金峰山のとくべんまで行つてきました。

広報 へ。

あれ、どうもありがとうございました。

広報 ありがとうございます。

それではお待たせしました。

「ストレスQ&A」をお読みください。なお、今回も前編後編とさせていただきます。

広報 なるほど。

村上Dr. やうですね、そこで無理をして、それこそ燃え尽きてしまつたり、そのことで自己に体の症状が表に出て、内科からいよいよ回つてこられる方もたくさんいらっしゃいます。

広報 相談できる人がいるところも大切ですね。

村上Dr. はい。人生の節目の大事な時はそういう友達がいるといいです。

広報 外来にも多いですね。

村上Dr. やうですね、そこで無理をして、それこそ燃え尽きてしまつたり、そのことで自己に体の症状が表に出て、内科からいよいよ回つてこられる方もたくさんいらっしゃいます。

広報 ありがとうございます。

それではお待たせしました。

「ストレスQ&A」をお読みください。なお、今回も前編後編とさせていただきます。

広報 なるほど。

村上Dr. やうですね、そこで無理をして、それこそ燃え尽きてしまつたり、そのことで自己に体の症状が表に出て、内科からいよいよ回つてこられる方もたくさんいらっしゃいます。

広報 ありがとうございます。

それではお待たせしました。

「ストレスQ&A」をお読みください。なお、今回も前編後編とさせていただきます。

広報 なるほど。</